

いのちを学ぶ

南九州大創立50周年

< 3 >

南九州大は2003年、健康栄養学部をつくり、管理栄養士を育成する管理栄養学科を設けた。県内には当時、管理栄養士の養成校がなく、希望者は県外へ出て行かざるを得なかったため、学生や保護者からの求める声に応えた。キャンパスは学生が病院や福祉施設、学校などでの実習がしやすいようにと、宮崎市を選んだ。

宮崎キャンパス

した卒業生は全員が合格した。試験突破を常に意識した学習カリキュラムが特長だ。専門的な基礎知識を学ぶ1、2年の授業では、教員らが試験の頻出事項を強調して教え、3年の6、8、1月には模擬試験を実施。早いうちから学生の学習意欲を高め、さらに4年では計10回模擬試験を行う。試験結果を元に編成されたクラスで週2回勉強会を開いたり、教員らの個別指導を受けたりと、学ぶ環境が整っている。

管理栄養士育成の場



健康栄養学部・管理栄養学科生が献立を考えた昼食を、学生の説明を聞きながら味わう南九州大の学生たち＝宮崎市

2年の弓削円香さんに貢献できるような管理(20)は「早い時期から皆 管理栄養士になりたい」と話が目標に向け努力している。卒業生は県内外の病院や行政機関、福祉施設

設、学校で管理栄養士や栄養教諭として活躍している。

社会人になれば栄養指導などで人と接する機会が多くなることから、学生のコミュニケーション能力育成にも力を入れている。食習慣について学生に尋ねたアンケート調査の結果を分析し、学生がより野菜を摂取できるように献立を考え、昼食に提供するなど、対象者の意見をくみ取り、改善策を考える実習もしている。

同科の杉尾直子教授は「何事も問題意識を持って対処するよう教えている。現状を見詰め、解決策を見つめる力を大学生活で養ってほしい」と話している。

(竹之下理恵)